

ホオノキ — 萌芽 —

地上部が枯れたり伐倒されたりすると、根株から一斉に萌芽するのは、広葉樹一般に広く認められる性質である。

萌芽のしかたには二つのタイプがある。たとえばミズナラでは、皆伐や枯損の後に一斉に萌芽するが、いったん成林した後は親株の周囲に若木を萌芽させることは少ない。だから樹齢、径級ともにそろった一斉林ができやすい。一方、ホオノキ、シナノキ、カツラなどは一斉に萌芽した後も、若木を萌芽させる性質があるから、樹齢、径級ともに幅広くなる。これらが株立ちしているところを観察すると、親株の周囲に小径木が何本か立っていることが多い。図は浦幌の天然生林でスケッチしたホオノキだが、すでに枯損した中央の老木も含めると、三代にわたって成立している。

(造林科 菊沢喜八郎)

